

## 事業計画書

事業名	にぎわい創出に貢献するイソギク植栽の試験的事業
実施場所	門池公園およびその他の公園
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2021年 4月 1日 ~ 2022年 3月 31日

## ◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

地域住民・団体と連携しながら、自生するイソギクの植栽を通して11～12月の開花期に見物客を呼びこむため、イソギクのもつ雑草抑制効果により、雑草対策にかかる人力・予算を軽減し、見物客増加への取り組みに振り向けるため、試験的に小面積でイソギクを植栽し、イソギクを知ってもらうイベントを開催しながら、植栽についての実験・検証を行う。

## ◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

イソギクとは茨城～静岡の海岸線に自生する海浜植物で、日本在来の固有種です。また草丈が30～40cmほどの常緑性多年草であり、一度植栽すると永年的に生育します。またイソギクは密生し、11月～12月にかけて黄色い花を一面に咲かせます。



（2019年度植栽されたイソギク開花期）



（2020年度植栽されたイソギク 長梅雨で生育遅れ）

このイソギクは海浜植物ということもあり、もともと乾燥、高温、貧栄養、日陰、塩害などのほとんどの悪環境に適応できる強健な植物です。種を作らず、地下茎のみで繁殖するため、周辺へ飛散拡大して繁殖することはありません。また虫媒花であり、花粉が飛散しないため、花粉症などのアレルギーとなることもありません。加えて今回植栽予定するのは、イソギクに特許技術である共生菌を感染させ、さらに悪環境に強く強健な緑化用植物とした「菌根イソギク」となります。

このような植物であるイソギクの大きな特性として、雑草抑制効果が挙げられます。1つは、

密生することにより、地表面への日光の到達を遮断することにより雑草の生育を抑制する。もう一つは、根から分泌するアレロパシー物質（生長阻害物質）により、他の雑草の種が発芽することを抑制する発芽阻害作用を発揮し、雑草を抑制します。

このような特徴をもつイソギクを、地域の方々や公園利用者に知ってもらうため、2019・2020年度イソギクを植栽した門池公園では引き続き、小面積（合計30～60㎡程度）で植栽します。植栽時に、地域住民、周辺学校の生徒たちと一緒にイソギクを植栽するイベントを企画します。イベントでは第1部としてイソギクについて知ってもらうための簡単な座学教室を地区センター等にて開催、その後、第2部で実際にイソギク植栽を行う予定です。新型コロナの感染状況によって、第1部を縮小し、第2部とともに屋外にて実施することも検討しています。

その際に、アフターケアとして、イソギクが活着するまで、植穴周辺から雑草が出てくるので、その“雑草を1本でも2本でも気づいた人が気づいた時に抜いて下さい！”というお願い・呼びかけも行い、アフターケアについて地域としての意識付けを行います。

表紙 55頁 発行 沼津 令和元年(2019年)11月25日(月曜日)



(2019年度植栽場所：門池地区センター 2020年度植栽候補図は別紙参照)

沼津市パークマネジメントプラン、それに基づいた門池公園でのイベント等のコミュニティビジネス化を考慮し、イソギクが本来持つ特性である雑草抑制効果による雑草対策の軽減に加えて、地域住民・コミュニティと連携しながら、公園に花が少なくなる11月～12月の期間に、イベント・コミュニティビジネスの1つとして“イソギクまつり”開催を視野に入れています。これによりパークマネジメントプランに沿った形で、地域振興、公園のにぎわい創出に貢献することを目的とします。

さらに、2019・2020年度、門池公園にてイソギクの植栽を続け、2019年度に植栽したイソギクはほぼ全面被覆となり、イソギク植栽のモデルケースとして利用することが可能となりました。2022年度以降の活動継続も見据え、2021年度は、県・市の公園を含めた公共施設、学校施設などに対して、イソギク植栽の提案活動を実施し、新規の植栽場所を獲得することを目指します。

## ◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
2021年4～5月	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 イソギクの植栽イベント(身近なスゴイ植物“イソギク”を知ろう! & 植栽イベント)開催
以後、～10月	定期的なイソギクの経過観察を実施(月1回程度) 必要があれば手抜除草作業を実施
11～12月	開花状況の確認を実施
2022年1月	開花後の花柄状況の確認を実施
通年	イソギクについてのアンケート調査等を実施する。 (予定として全面被覆時、開花時)  学校施設、他の県・市の施設などへのイソギクの新規植栽を提案する活動を実施する

## ◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。</p> <p>2019・2020年度に引き続き、2021年度もイソギクについて知ってもらうことを主としますが、2019年度に植栽したイソギクがほぼ全面被覆しているため、これを植栽事例として他の公園などの公共施設への植栽をプレゼンする活動も開始します。期待される効果の検証方法として、植栽したイソギクに対するアンケート調査を実施する。イソギク植栽プレゼン活動については、門池公園以外の場所への植栽の有無とします。</p>			
<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査よりイソギクへの期待度が50%以上</li> <li>・他の公共施設への新規植栽1か所以上</li> </ul>	<p>指標の検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査等による結果にてイソギクへの期待度により、</li> <li>・他への新規植栽の有無により、評価する</li> </ul>

## ◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。</p> <p>※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>イソギクによる景観向上、開花期の彩りによる公園利用者への良い景観空間の提供に加え、イソギクのもつ雑草抑制効果について認知してもらい、公園に対して草刈り等の雑草対策についても公園愛護会の作業軽減、草刈りに充てられてきた予算の削減に貢献し、別の用途へと振り向けることが可能とし、沼津市パークマネジメントプランの方向性とも合致します。さらに現在イソギクの苗木生産を行っているのは富士市にある福祉就労支援施設になるため、苗木の購入は施設利用者の工賃アップにも貢献できます。</p>
--------------------------	--

地域性	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>イソギクの自生地である沼津市にあって、地域住民の憩いの場となっている門池公園であるが、一部エリアでは雑草等を放置している結果、景観を損ないつつあります。これは他の公園等の公共施設でも同様です。イソギクを活用することにより、これまで雑草によりマイナスだったものが雑草をなくすことにより0に戻すだけでなく、積極的に人の目に留まるように景観を向上させることが可能です。</p>
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <p>外来種ではない、地域に根ざす在来植物であるイソギクを活用し、イソギクの特性を活かした雑草に対するメンテナンスを軽減させることに加え、イソギクの開花期の11月～12月にイベントを想定している点。近年、河津の河津桜まつり、本栖湖の芝桜まつり、ひたち海浜公園のコキアの紅葉祭り、あしかがフラワーパークの藤まつりなど植物をメインにした祭りイベントが盛んに行われるが、イソギクをテーマにした大規模な祭りイベントはない。</p>
発展性 ・ 継続性	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などについて記載して下さい。</p> <p>当法人は環境や緑化を専門とする団体であり、地域との連携は不可欠であり、地域振興やにぎわい創出については地域住民・コミュニティが主体となることが重要です。当初は当法人が主体でイソギクに対応するが、将来的に徐々に主体を地域に移行し、当法人はイソギクへの技術的なサポートを行いつつ、地域コミュニティが行うパークマネジメントに参画していく。</p> <p>また2022年度以降、イソギク活用のスキームは、他の公共施設、耕作放棄地、遊休地等でも十分利用が可能で、2021年度より他の場所へと活動を広げることにより、活動資金を確保しつつ、自立的な活動とすることが可能と考えます。</p>
実現性 ・ 妥当性	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <p>今年度も予算を考慮し、イソギクの植栽面積を決定しました。スケジュールは季節等の自然条件を考慮して計画をしました。また公園管理上の各種法令を遵守しながら、イソギクの植栽を実施していく予定です。</p>
活動に対する 熱意	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>樹木医として仕事柄、緑に囲まれた街並みを目指しており、イソギクのようなグランドカバーを含めた全体的な緑化にたいへん関心・興味を持っています。これまで想定していなかった緑により街の景観をがらりと変えるような都市計画の一部を担ってみたいと考えています。</p>

## ◎次年度以降の活動予定

<p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>2019・2020年度に引き続き、2021年度も試験的な活動の中で、イソギクという植物を地域住民、公園利用者に知ってもらうとともに、アンケート調査などによりイソギクに対する公園利用者の意見を聞き、どのように今後進めていくのかを検討する必要があります。肯定的な意見が多い場合、さらに植栽エリアを広げることを検討されます。</p> <p>イソギク活用のスキームは、他の公共施設、耕作放棄地、遊休地等でも利用が可能であると考えます。2021年度より、2019年度植栽した全面被覆済みのイソギク植栽地をモデルとして、イソギク活用スキームの提案活動を開始し、植栽実績、を積み上げることにより、次年度以降、イソギク植栽活動のための自己資金を確保しつつ、自立的な活動とすることが可能と考えます。</p>
--

## ◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

### 実績の評価

2020年度、門池公園内にて約35㎡の面積にてイソギクの植栽をしました。活動として、新型コロナウイルスの関連で、イソギク植栽イベント、草取りイベントの開催はできませんでした。活動として、植栽活動1回、アンケート調査1回、屋外でのイソギク解説講座5回（富士市・門池公園）、経過観察・除草・補植作業8回を実施しました。また沼津特別支援学校愛鷹分校の生徒・教員による草取り作業7回、補植作業1回を実施してもらいました。愛鷹分校で行ったイソギクアンケート調査より、開花期・緑化期とも95%以上の方がイソギクに対して悪印象を持っていないことがわかりました。今後の展開に弾みとなりました。

### 改善点

2019年度に植栽したイソギクはほぼ全面被覆をし、2020年度に植栽したイソギクは長梅雨による天候不順のため生育不良でした。また、イチョウによるアレロパシー障害も疑われます。2021年度植栽予定場所はイチョウが植栽されたエリア以外を検討します。2021年度は、門池公園での植栽実績を持って、他の学校施設、県・市の公園などの公共施設等への植栽提案活動を開始し、新規の植栽を実施することを目指します。